

H.C.R. 2017 福祉機器利用者アンケート 回答の概要

1. 福祉機器情報の入手方法 (※複数回答可)

福祉機器情報の入手先については、前回に引き続き「福祉機器常設展示場」が22%と最も多く、次いで「介護ショップ」が11%、さらに、「販売会社営業担当者」が9%という順になりました。機器を実際に見て、触れることができる点はその背景にあるものと推測されます。続いては、「各企業のホームページ」が8%、そして「H.C.R.福祉機器情報サービスホームページ」と「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」がそれぞれ7%で並ぶ結果となりました。これらの結果はここ数年、大きな変化は生じていません。

なお、「その他」8%の中には、特別支援学校の先生や障害者就労支援事業所、民生委員・児童委員から情報を得たとの回答もありました。

2. 相談窓口 (※複数回答可)

福祉機器を購入・レンタルするときに相談した窓口としては、2011年の調査から7年連続で「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」が最上位で26%であり、微増ながらも年々その割合が高くなっています。次点は「販売企業の営業所窓口／営業員」であり、割合は前年同様の22%でした。

さらに、「市町村役場」が14%、「医師・病院」が10%、次いで「福祉機器常設展示場」8%、「老人福祉施設」6%という結果となりました。

3. 福祉機器の利用にあたって 望まれること (※3つまで選択可)

「福祉機器の利用にあたって望むこと」の最上位は「操作のしやすさ」となり、前回比で5ポイント増の32%となりました。操作のシンプルさや分かりやすさに対する要望がさらに高まってきているものと考えられます。

2番目に多かったのは「価格の安さ」17%でした。昨年度アンケートの次点は「安全性」となりましたが、こんにち機器の価格の安さを求める意見はフリーアンサーの中でも多く出されるようになってきており、安全性を前提としつつ安価な機器の開発に期待している声はさらに高まりつつあります。

また、3番目は「機能・操作が複雑でないこと」の14%でした。次いで、「安全性」7%と同ポイントで上位にあがった回答が「故障時の修理対応／アフターサービスの充実」でした。機器購入における経済的負担感が高まっているがゆえの回答が増えつつある状況がここでも見て取れる結果となりました。

4. 福祉機器の開発や 利用についての意見・要望

メンテナンスや修理、試用、レンタルやリースなど、具体的な費用負担の軽減についての対応や制度化などを求める声が、ユーザー、介護者、病院・施設などの現場関係者のそれぞれから寄せられました。

また、ユーザーのニーズの個別化や多様化がますます進むなかで、デザインなどについてもユニバーサルデザイン化を望む声等、さらなる配慮を求める意見が多くありました。

そして、本人により適合した製品の入手をめざすにあたっての情報提供の方法については、各地域で機器を常設展示する施設を増やすことや専門職の配置、また、インターネットを活用してのさまざまな福祉機器の比較や利用者などによるレビューが確認できるようなしくみを求める声も多くありました。その他、AIを活用した福祉機器等の活用を望むユーザーから、企業などによる製品説明により一層のわかりやすさを求める声もありました。

福祉機器の開発の視点として期待したい事項

- ① 介助されることを前提とするのではなく、自分でするようにする視点での福祉機器の開発をお願いします。
- ② 介護予防用品にもっと力を入れて開発してほしいです。
- ③ 色や表面の材質など、感覚入力面に着目しての視点で開発された福祉機器が広がることに期待しています。
- ④ 利用者の障害の状態や体調等に即応できる幅をもった機器のカスタマイズ性をもっと重視してほしいです。
- ⑤ デザイン重視の方も多くなっており、色の選択肢等、デザイン性の高い製品がもっと出てきてほしいです。
- ⑥ 安全性が第一ですが、介護される方が申しわけなく感じないような視点での福祉機器を開発してほしいです。
- ⑦ 医学的知識が少なくても利用者に合わせたセッティングが簡単にできる機器を多く開発してほしいです。
- ⑧ 介護施設において、介護士が使用する上での安全面も含めて十分に配慮された福祉機器の開発を望みます。
- ⑨ 日本の住宅（団地等）でも使えるよう、段差があり狭い場所でも小回りの効く福祉用具の開発をお願いします。
- ⑩ 介護保険補助前提の価格では利用者負担が増える一方で、開発においてもコスト削減に力を入れるべきです。
- ⑪ 小物類の開発が減っているようですが、利用者のQOLが上がるよう、日常生活で使う物の製作に期待します。
- ⑫ 電気を使う製品が多くなりすぎています。狭い家屋に対応できなかったり、金額が高いものとなっています。
- ⑬ 福祉機器を長期で利用する間に不具合が見つかることもあり、その場合の対応も考えていただきたいです。
- ⑭ 介護者にとっては低負荷であることはもちろん、家族にとっても同時に扱いやすいものがほしいと考えます。
- ⑮ センサー機器や手すり等が簡便に取り付けられるようになると、自宅での介護負担が軽減すると思います。

機器の販売時や展示物の説明のあり方に関する事項

- ① AIを利用した福祉機器を、もっとわかりやすく展示し、説明していただきたいと思います。
- ② アフターケアの充実を望みます。例えば、車いすは状態に応じて機種変更が可能となる仕組みを望みます。
- ③ 説明を受けてメモを取るのが大変なので、各種障害にも配慮した説明資料を用意してほしいと思います。
- ④ 段差がある場所等での車いすの使い勝手を試したいので、さまざまな環境で試乗ができるとよいと考えます。
- ⑤ 説明を受ける際に、その福祉機器に真に適した方での臨床の結果を正確に知りたいと思います。

今後の開発に期待したい具体的な福祉機器等

- ① シルバーカーについては、幅の関係でバスの乗車口は通れないし、カゴに入れた物も取り出しにくいという、

- 力がないうちにブレーキのボタンを押しにくい等があり、使用者の意見も取り入れて製作してほしいです。
- ② 布団で生活している人を車いすに乗せる等、床からの移乗に使える機器を開発していただきたいです。
- ③ さらに履いていただきやすく工夫されたリハビリパンツの開発をお願いします。
- ④ 固定式歩行器に、食器や食べ物等を運べるカゴが付いているような製品がほしいです。
- ⑤ 障害者のためのコミュニケーションツールのさらなる充実を望みます。視覚的にわかるもの、音的にわかるものなど多くの工夫の必要性を感じています。
- ⑥ 身体を他人に洗われるのは嫌なので、自動で身体を洗える機器がほしいです。
- ⑦ 電動車いすのサドルの高さが調節可能な機能や、座り心地等にこだわりを持って製作していただきたいです。
- ⑧ 車いすの手動のフットレストが不便であり、改善された製品を望みます。
- ⑨ 脊髄損傷者のための上衣更衣やトイレ、移乗等に利用できる機器開発が拡充されるよう望みます。
- ⑩ 浴室での速乾性タイルの開発をしていただきたいです。
- ⑪ 入浴のあと、脱衣場で使用できる簡易な折り畳み式ベッドの開発をお願いします。
- ⑫ 脳性まひのある人に対応した、使いやすいキーボードや電話がほしいです。
- ⑬ 入浴用のイスでもっと良い製品ができないでしょうか。
- ⑭ 片手駆動の車いすを増やしていただきたいです。
- ⑮ 車いすに、道の凸凹を感じないようなクッションやバネを付けていただきたいです。
- ⑯ 高齢者向けの嚥下機能サポート製品など、食に関する機器開発をさらに充実していただきたいです。
- ⑰ 転倒予防のために利用できるロボットがほしいです。
- ⑱ 電動車いすについては、乗用車のように「鍵」を使うことで動くようにしたほうがよいと思います。
- ⑲ 認知症本人向けの製品をさらに多様に開発していただきたいです（リハビリ機器を含む）。
- ⑳ 障害者等に配慮したトイレチェアの開発を望みます。

子どものための福祉機器に関する事項

- ① 「療育」に関する製品として、以前は多かったスヌーズレン等の子どもの学習道具・遊具等も含めた開発を充実させてほしいと思います。
- ② 障害児用の福祉用具やリハビリテーション機器、ニーズを汲んだおもちゃ等がもっとあるとよいと思います。
- ③ 小児用の簡易浴槽の種類をもっと増やしてほしいです。
- ④ 医療的ケアが必要な子どものための、さまざまな機器やポンペを積めるサイズのベビーカー兼バギーのような製品があればよいのと思います。

福祉機器ユーザーの視点での情報収集に関する事項

- ① 福祉機器は新旧の入れ替わりが早く、以前のものが使用不可となり、買い替えが大変です。いろいろな情報を日常的かつ手軽に入手できればと考えます。
- ② 福祉機器を使用している良い面やヒヤリハット等の意見を見られる口コミサイトがあったらよいと思います。
- ③ オープン価格が多く実際の購入金額がわかりません。また、一覧可能な価格比較サイトがあれば便利です。
- ④ 日常生活用具は試用ができないため失敗が多く、試せる場があればとても助かり、比較して購入できます。

